INDEX

No.46（1998.12）

ISSN 0912-5922

学術情報センターニュース

第46号目次

《トピックス》

目録システムにおけるドイツMARCの導入

北京日本学研究センター図書資料館情報化支援ワークショップの開催

「中国語資料の取り扱い（検討案）」の報告内容

平成10年度学術情報センター「情報処理軽井沢セミナー」終了報告

科学実験教室「文部省学術情報センター見学会」

新情報検索システムの試験公開（中間報告）

新IRシステムおよび新CAT/ILLシステム説明会の開催報告

電子図書館サービスの実施状況

電子図書館サービスにおける著作権使用料の課金開始

《参加館紹介》

国際文化会館図書室における学術情報センターシステムの利用

青森県立図書館におけるNACSIS-ILLの利用

《NACSISサービス案内》

米国回線の増強－150Mbps－

年末年始のサービス休止予定

「社会学文献情報データベース」および「地理学文献データベース」サービス開始

接続ニュース（平成10年９月30日現在）

SCI，SSCI，AHCIおよびISTP&Bのサービス変更

学術情報センターシステム利用の継続手続き

文部省科学研究費補助金による利用期限（２月13日）

「学術雑誌目次速報データベース」の進捗状況

Webcat利用状況（平成10年度前期）

NACSIS-ILL利用状況（平成10年度前期）

NACSIS-IRデータベース増加状況

NACSIS-CATデータベース構築状況

《教育・研修》

平成10年度利用説明会開催予定

平成10年度総合目録データベース実務研修－終了報告－

《講演会など》

学術情報の国際的流通共有システムに関する実証研究－タイ王国からの研究者招聘－

DATABASE '98TOKYOの出展報告

《その他》

人事異動（平成10年８月－10月）

目録システムにおけるドイツMARCの導入

学術情報センターは，平成10年11月から目録システムにドイツMARCを導入し，目録システム参加館が参照情報として利用できるようにした。

学術情報センターの目録所在情報サービスでは，国内外の国立図書館などが作成した書誌情報（MARC：MAchineReadable Catalog）を導入し，目録データの効率的な入力を支援している。しかしながら，ドイツ語資料については，現在，大学図書館などで約730万冊所蔵されているが，これまでドイツ語資料のMARCが導入されていなかった。そのため，総合目録データベース化されているのは約100万冊という状況であった。

ドイツMARC（Deutsche Nationalbibliographie）は，ドイツ国立図書館（DieDeutsche Bibliothek）で作成されている書誌情報であり，目録システム参加図書館から導入の要望が強かったものである。学術情報センターでは，平成９年度からこのためのシステム開発を実施するなど，導入に向けた準備を進めてきた。今回の公開により，ドイツ語資料の目録データ入力作業の飛躍的な効率化が期待される。

１．導入予定

平成10年11月

２．件数およびデータ内容

（１）データの収録年：1945年～現在

（２）初期導入レコード件数：約400万件

（３）年間増加レコード件数（推定）：約30万件

（４）データ内容：主としてドイツ国内で刊行された図書，地図，録音資料および学位論

文など。雑誌は除く。

ドイツMARC（Deutsche Nationalbibliographie）の詳細については，次のドイツ国立図書館のURLを参照されたい。

http://www.ddb.de/service/index_e.htm

３．利用方法

利用方法，利用上の注意点などについては，「オンライン・システムニュースレターNo.64」の関連記事にて説明している。

（目録情報課）

目次へ戻る　　次へ

北京日本学研究センター図書資料館
情報化支援ワークショップの開催

学術情報センターでは，国際交流基金，北京外国語大学および北京日本学研究センターの要請を受けて，北京日本学研究センター図書資料館の情報化支援を行っている。そのために行った事前調査については，本センターニュース第45号（1998.9）で報告した。

この事前調査の結果，北京日本学研究センター図書資料館の情報化支援にとどまらず，日中間の学術情報流通を図るため調査等を実施すべきことが明らかになった。

そこで，学術情報センターでは，中国（北京）に学術情報センターの各サービスを有効かつ円滑に展開すること，日本情報を中国へ発信すること，日本国内の研究者に有益な中国内の情報を収集すること等，日中間の学術情報流通をより一層促進するための方策を調査検討および実施する組織として，「中国との学術情報交流プロジェクト」を設置した。

本プロジェクトは，今年度より３か年計画で，上記の目的を遂行するための様々な活動を行う予定である。初年度の活動の一環として，このたび北京において「北京日本学研究センター図書資料館情報化支援ワークショップ」が，北京日本学研究センターと学術情報センターとの共催により開催された。

１．日時・場所

（１）日時

平成10年10月22日（木）14：00～16：30

（２）場所

北京日本学研究センター　３階電教室

２．講演内容

・「日本における学術情報システム」

講師：　宮澤　彰　学術情報センター研究開発部教授（情報図書館学研究部門）

・「現代化に立ち向かう中国図書館」

講師：　朱　岩　　北京図書館研修センター主任

・「中国における日本研究と情報化」

講師：　曹　大峰　北京日本学研究センター客員教授

・「北京日本学研究センター図書資料館情報化支援計画」

講師：　牧村正史　学術情報センター事業部目録情報課長

３．概要

北京近隣の図書館および学術情報関係者と北京日本学研究センター関係者，合計70名が参加して開催された。徐一平北京日本学研究センター副主任の司会により，学術情報の流通に関する話題と，学術情報センターによる北京日本学研究センター図書資料館情報化支援計画をめぐる話題についての講演が行われた。同じ漢字文化圏に入る日中両国とはいえ，使っている文字そのものも大部分が異なっており，情報化の前提となる文字コードも異なっている。このため，インターネットが普及しても，従来は情報交換を行うことが困難であった。しかし，近年になって，異なる文字コードを相互に自動変換するソフトが開発されたり，一方で多言語に対応した文字コードを採用する動きも多くみられるようになっており，文字種の壁を超えた学術情報の流通が求められてきた。

今回，このような形で，両国の図書館および学術情報関係者が，直接情報交換できたことは，非常に意義深いものであり，四つの講演を通して，それぞれの国の学術情報システムについて相互に理解を深めることができた。このワークショップによって，日中両国の学術情報流通および学術情報システム交流の第一歩が築かれたことは，今後の両国の学術情報における相互関係にとって非常に有意義なことであった。

学術情報センター　宮澤教授の講演と会場風景

北京図書館朱岩氏（左）と北京日本学研究センター施建軍氏（通訳担当）

北京日本学研究センター　曹大植氏

（目録情報課）

目次へ戻る　　次へ

「中国語資料の取扱い（案）」の報告内容

１．経緯

学術情報センターでは，平成９年４月から，新目録所在情報サービスの運用を開始したが，次のステップとして，多言語多文字種資料への対応を予定している。そして，システムの多言語多文字種対応に備えて，まず，要望の最も大きい中国語資料を登録できるように，外部委員を含めた中国語資料データベース化検討ワーキンググループを設けて，検討を進めてきた。その検討状況については，本センターニュース第41号（1997.9）で報告したが，今回，検討内容が「中国語資料の取扱い（案）」としてまとめられ，平成10年11月29日開催の，平成10年度第１回総合目録委員会に報告されたので，報告内容の概要と，今後のスケジュールについて紹介する。

２．「中国語資料の取扱い（案）」

案は，「１．基本方針」，「２．「目録情報の基準」の変更点」，「３．中国語資料用コーディングマニュアル」の三部に分かれている。

「１．基本方針」では，１）適用する目録規則は原則として「日本目録規則1987年版改訂版」とし，必要に応じて「中国文献編目規則」を適用する，２）記述部分に関しては，転記の原則に従い，書かれたままの字体で記録する，３）漢字の単語単位での検索を可能とするため，日本語ヨミの付与を必須とし，ピンインは，日本語ヨミとは別に記録することができる，４）古籍については，別ファイルを設定することはないが，入力規則を別に作成する予定である，５）既存中国語資料データは，現在入力されている文字をそのままUCS（Universal Multiple-Octet Coded Character Set）に変換して，総合目録データベースに格納する，の５点をあげている。

「２．「目録情報の基準」の変更点」では，従来の「基準」に対する変更点の他に，新たに中国語資料のヨミの表記および分かち書き規則が追加されている。この規則は，ヨミや分かちの標準化が目的ではなく，あくまで，検索のための便宜的な規則である。また，特殊文字・記号の取扱いについては，UCSに収録された記号のうち，JISX0208：1997にあるもののみを使用することとし，従来のEXC文字に含まれていた「合成開始」などの記号は使用しないこととした。

「３．中国語資料用コーディングマニュアル」は，基本的なフィールド項目についてのみ，対象としている。「基準」の確定後，残った項目についての検討を継続する。

３．今後のスケジュール

総合目録委員会における各委員からの意見を反映した上で，「オンライン・システムニュースレター」65号（12月発行予定）の付録などで公開し，目録担当者などに，広く告知するとともに意見を求める。集約した意見も含めて，再度総合目録委員会などで検討し，「基準」および「コーディングマニュアル」を平成11年度中に刊行する予定である。

（目録情報課）

目次へ戻る　　次へ

平成10年度学術情報センター「情報処理軽井沢セミナー」

終了報告

学術情報センターでは，学術研究活動を支援する大学職員の情報リテラシー研修の一環として，平成10年８月10日から８月14日までの５日間，国際高等セミナーハウス（長野県軽井沢町）を会場に標記のセミナーを実施した。このセミナーはインターネット環境における最新の情報処理技術を習得することを目的にしたもので，初年度である今年度はJava言語をテーマに取り上げた。

講師として会津大学より池田誠教授を招き，さらに本センターの橋爪宏達教授，後藤田洋伸助手が，下記，研修生の指導にあたった。カリキュラムはセミナーハウスに備え付けのノートパソコンを一人一台使用したプログラム演習を中心に，Java言語の基礎，インターネット環境におけるJavaの活用などについて，幅広い講義が行われた。また，日本サン・マイクロシステムズ株式会社の金子真人氏によるJavaの開発に関する特別講義も行われた。

本セミナーの会場となった国際高等セミナーハウスは，平成９年に竣工された施設であり，セミナー室，研究室のほか宿泊室や食堂を備えており，短期のワークショップやセミナー，国際会議などの他にも，今回のような合宿形式での中期のセミナーなど幅広く活用されている。

研修生

所　　属	氏　　名
北海道大学附属図書館	杉　田　茂　樹
東北大学附属図書館	照　内　弘　通
筑波大学附属図書館	栗　山　正　光
東京大学教育用計算機センター	山　本　和　男
東京工業大学附属図書館	五十嵐　裕　一
山口大学総合情報処理センター	金　山　知　余
九州大学大型計算機センター	河　津　秀　利
学術情報センター	上　村　順　一（特別聴講）

カリキュラム

・オブジェクト指向とJava言語
・Java言語の基本
・Javaの制御構造
・クラス，オブジェクトの生成，インターフェイス，パッケージ，例外処理，スレッド
・ネットワーク機能
・Java開発の背景

・アプレットの作成

なお，このセミナーで使用した演習問題は以下のWWWページで公開している。

http://www.nacsis.ac.jp/hrd/HTML/Karuizawa/h10-karuizawa-hokoku.html

講師，研修生，スタッフ

講義

プログラム演習

プログラム演習

（研修課）

目次へ戻る　　次へ

科学実験教室「文部省学術情報センター見学会」

平成10年８月20日（木）に学術情報センターにて，科学技術館サイエンス友の会主催，電子情報通信学会共催による「文部省学術情報センター見学会」が開催された。見学会では「科学者はどうやって情報を集めるの？」をテーマに，科学者の仕事と学術情報センターの役割についての説明，Webcat，新IR，電子図書館等のサービス紹介およびデモンストレーションが行われた。また電子情報通信学会の事務局の方からは，学会の仕事について簡単な紹介を頂いた。さらに，実際にコンピュータの端末を操作してインターネットに触れる体験教室も行われ，小学生を中心とする約20名の参加者の方々が熱心に画面に見入る姿が見られた。

見学会会場の様子

体験教室にて画面に見入る参加者

目次へ戻る　　次へ

新情報検索システムの試験公開（中間報告）

本センターニュース第45号（1998.9）でお知らせした新情報検索システムの試験公開を，平成10年10月１日～12月25日の期間で実施している。

平成10年11月30日現在の試験公開利用状況は，以下のとおりである。

試験公開利用者の方々へのアンケート調査も計画しており，次号以降にその結果を含めて改めて報告する予定である。

利　用　者　統　計

	実利用者数			利用回数			利用時間（分）		
	WWW	telnet	計	WWW	telnet	計	WWW	telnet	計
10月	352	24	357	785	58	843	13,060	252	13,312
11月	422	33	429	1,169	57	1,226	32,229	520	32,749

データベース利用統計

	実利用者数			利用回数			表示件数		
	WWW	telnet	計	WWW	telnet	計	WWW	telnet	計
科研費DB	121	10	123	202	26	228	12,289	128	12,417
経済学DB	77	3	77	134	13	147	3,981	44	4,025
目録（雑誌）	124	8	129	195	15	210	2,788	5	2,793
HBR	15	1	16	22	8	30	111	0	111
SSCI	68	8	71	98	17	115	1,216	35	1,251
国会欧文会議録	40	4	42	68	11	79	1,194	0	1,194
維新史料	17	1	17	22	8	30	234	0	234
家政学DB	35	3	35	49	10	59	1,172	5	1,177
学会発表DB	139	2	140	260	2	262	6,672	34	6,706
科研採択課題	104	4	106	180	6	186	5,559	174	5,733
目録（図書）	124	8	128	220	13	233	3,789	11	3,800
LIFE	40	2	42	66	2	68	373	6	379
SCI	94	9	96	171	12	183	3,080	37	3,117
RAMBIOS	19	0	19	29	0	29	18	0	18
大型コレクション	31	1	31	39	1	40	182	10	192

独文学会DB	22	1	23	28	1	29	322	0	322
雑誌記事索引	223	11	226	479	17	496	22,101	480	22,581

（データベース課）

目次へ戻る　　次へ

新IRシステムおよび新CAT/ILLシステム説明会の開催報告

本誌前号（45号）でお知らせしたとおり，情報検索サービスの「新IRシステム」および目録所在情報サービスの「新CAT/ILLシステム」に関する説明会を，下記の日程で開催した。

説明会では，それぞれの新システムの概要説明とデモンストレーションを行い，新システムに関する参考資料を配布した。各会場とも多数の参加があり，各利用者の新システムへの円滑な移行を支援する目的を達したものと思う。

会場を手配いただいた関係者の方には，この場を借りてお礼申し上げたい。

地区名	開催日	会場
北海道地区	平成10年11月10日（火）	北海道大学
東北地区	平成10年11月19日（木）	東北大学
関東・甲信越地区	平成10年11月24日（火），25日（水）	東京医科歯科大学
中部地区	平成10年12月１日（火）	名古屋大学
関西地区	平成10年11月17日（火）	京都大学
中国・四国地区	平成10年11月10日（火）	広島大学
九州・沖縄地区	平成10年11月17日（火）	九州大学

新IRシステム説明会

新CAT/ILLシステム説明会

（データベース課，目録情報課）

目次へ戻る　　次へ

電子図書館サービスの実施状況

１．収録コンテンツの状況

収録対象は，11月初め現在で，各分野の64学会213誌の発行する学会誌・論文誌となっています。これらの学会のうち42学会174誌の学会誌・論文誌を収録しています。今後，順次登録を行い，利用可能といたします。

２．電子図書館サービスのソフトウェア提供状況

UNIX用電子図書館専用クライアント・ソフトウェア

製　　品	オペレーティングシステム	提供ソフトウェア
SUN Microsystems社製または同互換機	Solaris用(OSにSolaris 2.4, Solaris 2.5, Solaris 2.5.1を使用している場合)	elb-solaris2.4.tar.Z (Ver3.0平成10年2月1日から公開, Ver3.1予定)
	SunOS用(OSがSunOS 4.1.3, SunOS4.1.4でホスト名参照にNISを使用している場合)	elb-sunos4.1.3.tar.Z (Ver3.0平成10年2月1日から公開)
	SunOSネームサーバ用(OSがSunOS 4.1.3, SunOS 4.1.4でネームサーバを使用している場合)	elb-sunos4.1.3-dns.tar.Z (Ver3.0 平成10年5月18日から公開)
	Solaris SOCKS用(OSがSolaris2.4, Solaris 2.5, Solaris 2.5.1でファイヤーウォールのProxyにSOCKSを使用している場合)	elb-solaris2.4-socks.tar.Z (Ver3.0 平成10年7月1日から公開, Ver3.1予定)
NEC社製EWS4800	EWS4800用 (OS:EWS-UX/V4.2MP)	elb-ews.tar.Z (Ver3.0平成10年5月18日から公開, Ver3.1予定)
	EWS4800 SOCKS用(OSがEWS-UX/V4.2MPでファイヤーウォールのProxyにSOCKSを使用している場合)	elb-ews-socks.tar.Z（平成10年8月20日から公開, Ver3.1予定)
DOS/Vパーソナルコンピュータ	DOS/Vパーソナルコンピュータ用 (OSにSolaris2.5.1 for x86を使用している場合)	Elb-solaris.x86.tar.Z (Ver3.1予定)
Hewlett Packard社製HP9000または同互換機	HP9000用(OSにHP-UXを使用している場合)	Elb-hp.tar.Z (Ver3.1予定)

＊Elbrowser version3.1では，さらにHelp機能，学術情報センター以外のZ39.50サイトに接続し論文を検索する機能が追加されています。

パーソナルコンピュータ用電子図書館プラグイン・ソフトウェア

製　　品	ブラウザ	提供ソフトウエア
Microsoft Windows95, Windows98またはMicrosoft WindowsNT3.51以上 備考：メモリ32Mbyte以上を推奨	Netscape Navigator Version2.0以上	Netscape Navigator 対応プラグイン・ソフトウェア
	Microsoft Internet Explorer3.0以上	Microsoft Internet Explorer対応プラグイン・ソフトウェア
Apple社製のPower MacintoshまたはMacOS搭載機 漢字Talk 7.XまたはMacOS 7.6以上	Netscape Navigator Version2.0以上またはMicrosoft Internet Explorer3.0以上	Power Macintosh対応プラグイン・ソフトウェア

＊WWWブラウザと学術情報センター電子図書館プラグイン・ソフトウェアとの組み合わせの使用となります。このプラグイン・ソフトウェアでは印刷機能が追加されています。

＊各ソフトウェアの最新提供状況および入手については，次のURLをご覧ください。

URL:http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html

（データベース課）

目次へ戻る　　次へ

電子図書館サービスにおける著作権使用料の課金開始

電子図書館サービスは，これまで無料でご利用いただいてまいりましたが，平成11年１月１日の利用分から，各学協会が定める著作権使用料の課金を開始することになりました。

各学協会誌には，無料のものと有料のものとがあり，有料のものについては，ページ単位の著作権使用料を利用者の方々の利用に応じてご負担いただきます。各学協会が定めた著作権使用料の額は，次のURLをご覧ください。

URL:http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html

○申請書の追加の記入について

電子図書館サービスをすでに利用の方で，平成11年１月１日以降も，引続き電子図書館サービスを利用する方は，平成10年11月24日付け文書「電子図書館サービスにおける著作権使用料の課金開始のお知らせ」にてご案内しているとおり，電子図書館サービス利用申請書の追加記入の手続きが必要となります。

また，平成10年12月12日以降に回答いただいた方は，順次，追加項目などの入力作業を行いますので，入力作業後にご利用になれます。

なお，著作権使用料の算出の際に，利用した雑誌の著作権を所有している学会の会員か非会員かにより料金が異なる場合がありますので，所属学会名および会員番号は必ずご記入下さい。

（データベース課）

目次へ戻る　　次へ

国際文化会館図書室における学術情報センターシステムの利用

（財）国際文化会館図書室

樋口　恵子

１．はじめに

国際文化会館図書室は，日本研究の専門図書館として，会員を中心とした内外の学術研究者をサービス対象とする図書館である。利用者の６割が外国人研究者であり，直接来館利用できない海外の研究者に対するサービスに力を入れている点に特色がある。蔵書数は約２万冊であり，欧文による日本研究図書および人文・社会科学分野の雑誌を収集対象としている。特色のあるコレクションとしては，英文の日本政府刊行物，海外日本研究機関のワーキング・ペーパー類などがある。

２．学術情報センターシステムの利用

当図書室ではレファレンス・サービスの拡充を図るために，1991年にNACSIS-IRシステムおよび電子メールシステムの利用を開始した。さらに1993年にはNACSIS-CATに参加し，1995年からNACSIS-ILLの利用を開始している。

学術情報センターシステムの利用は，当図書室の場合レファレンス・サービスにおいて，最も力を発揮していると言えよう。海外在住の研究者からNACSIS-MAILによるレファレンス質問を受け，NACSIS-CAT，NACSIS-IRによって，調査した結果を電子メールで回答し，当該研究者の来日予定に合わせて必要な文献をNACSIS-ILLによって予め取り寄せておいて提供するといった事が日常的に行われている。当図書室は土曜日も開館しているので，最近ではNACSIS-Webcatをレファレンスに利用することも増えている。つまり，当図書室は海外の研究者が日本の資料を利用する際の窓口として機能しているが，NACSISの利用がこのようなサービス提供の基盤の一つとなっているといえる。

現時点では当図書室の利用者の多くは，日本語の表示機能を自分のパソコンに持たないために，海外から直接NACSIS-Webcatにアクセスして利用した経験が無い。海外から学術情報センターシステムを直接利用したいと考える学術研究者および図書館に対する広報，サポートについては，学術情報センターのサービスの一層の充実を期待している。

３．今後の課題

当図書室の業務の多くは，コンピュータ化されておらず，学術情報センターへの接続はすべてダイヤル・アップ接続であって，常時ネットワークで接続可能な情報環境はまだ無い。今後最大の課題は，新CAT/ILLシステムへの移行であるが，その際には図書館業務システム全体の電子化，ネットワーク化を同時に実現したいと考えている。民間の非営利団体であるため財源に乏しい事，またネットワークの専門知識を有する人材の不足など，問題点は多々あるが，前向きに取り組んでいきたいと考えている。

目次へ戻る　　次へ

青森県立図書館におけるNACSIS-ILLの利用

青森県立図書館奉仕課主幹

谷田　明子

当館は平成６年３月の新館オープンとともに，学術情報センターシステムの利用を開始した。

新館においては，コンピュータ利用による情報提供など幅広いサービスが可能となり，各種サービスの利用が開館と同時に大幅に増えており，また，このような中で学術情報センターのNACSIS-ILLの利用件数も年を追うごとに増えてきている。

これは，県民の高度多様な情報要求の高まりと相まって，従来国立国会図書館や公共図書館では対応できなかった専門分野の情報が各大学から容易に入手できることによるものと思われる。

利用件数

	平成６年度	平成７年度	平成８年度	平成９年度
借受依頼件数	43件	57件	204件	187件
複写依頼件数	72件	95件	242件	255件
貸出受付件数	0件	2件	2件	2件
複写申込受付	4件	19件	9件	19件

当館における学術情報センターの利用状況を見ると，平成９年度は，開館当初（平成６年）にくらべ約４倍に達しており，その95%が大学図書館からの専門図書や資料の借受・複写の依頼で，主として歴史・民俗関係に関する資料の要求が多い。

近年，各公共図書館においては，国立国会図書館や公共図書館同士のコンピュータネットワーク，CD-ROMなど様々な形で情報検索ができるようになっている。

しかし，公共図書館の立場からすれば，利用者は多様で，読み物から各地の郷土資料，専門的な学術論文まで幅広い情報・資料の提供が求められるので，NACSISとこれらを使い分けて，利用者が真に求める情報・資料を最も良い条件で提供するよう努めているところである。

NACSISについてはこれからも積極的に活用し，利用者に対するサービスの充実を図っていきたいと考えているが，一方で，当館だけでは県民全体に対するサービスに限界があるため，今後は，市町村図書館においてもNACSISを利用して，直接地域住民に資料・情報の提供を行うことができるようなシステムづくりが必要ではないかと考えている。

当館としては，依頼面でNACSISには多大の恩恵を受けているが，提供面であまり貢献していないので，今後，郷土資料を中心にいくらかでも提供できるよう努めていきたいと思っている。

目次へ戻る　　次へ

米国回線の増強－150Mbps－

平成10年10月１日（木）から，日本－米国間のSINET国際専用回線を150Mbpsに増速しました。

これは，海外との学術研究通信の大幅な増加に対応し，今後の学術研究の発展のため，一層の有効利用を図るためのものです。

今後とも，学術情報ネットワークに一層のご協力をお願いします。

問い合わせ先：

ＴＥＬ：（０３）３９４２－６９０６

（０３）３９４２－６９０７

ＦＡＸ：（０３）３９４２－９３９８

（ネットワーク課）

目次へ戻る　　次へ

年末年始のサービス休止予定

年末年始の各サービス休止予定は，次のとおりです。これ以外にサービスを休止する必要が生じた場合は，その都度各サービスのオンラインニュースなどでお知らせします。

なお，電子図書館サービス，研究者公募情報サービスおよびWebcatの休止予定は，ありません。

サービス	休　止　日　時
目録所在情報サービス	12月26日（土）～１月４日（月）
情報検索サービス	12月27日（日）～１月４日（月）
電子メールサービス	12月22日（火）12：00～17：00（12月30日の定期保守の振替）

（システム管理課）

目次へ戻る　　次へ

「社会学文献情報データベース」および「地理学文献データベース」サービス開始

社会学関連の文献情報を収録した「社会学文献情報データベース」と，地理学および関連分野の文献情報を収録した「地理学文献データベース」のサービスを平成10年10月１日（木）から開始しましたので，その概要などをお知らせします。

１．概要

（１）社会学文献情報データベース

① 収録対象

日本人研究者が発表した／日本国内で発表された社会学関連の文献についての書誌情報を収録。

② 収録範囲，収録件数

1991～1996年。サービス開始時の件数は約12,000件

③ 収録項目

標題，著者名・訳者名，掲載誌名，原著標題，言語コード，キーワード，分類など

④ 呼び出しコマンド

「SOCIO」

（２）地理学文献データベース

① 収録対象

日本国内で刊行された地理学および隣接関連分野の文献についての書誌情報を収録。

② 収録範囲，収録件数

1987～1996年。サービス開始時の件数は約14,000件。

③ 収録項目

標題，著者名，掲載誌名，原著標題，主題分類，地域分類など。

④ 呼び出しコマンド

「GEOG」

２．利用方法

データベースの内容および利用方法などについては，それぞれの「NACSIS-IRデータベースシート」をご覧ください。

なお，データベースシートはお手元のFAXから取り寄せる事もできます。詳しくは

センターニュース36号の「FAX情報サービス」をご覧ください。また，WWWでも同様のものを見ることができます。

URLは次のとおりです。

（１）社会学文献情報データベース

http://www.nacsis.ac.jp/ir/dbmember/socio-j.html

（２）地理学文献データベース

http://www.nacsis.ac.jp/ir/dbmember/geog-j.html

３．利用料金

データベースを呼び出す都度…30円／回

なお，利用にかかる経費は，各データベースの利用額の合計額にその５％を加算した額となります。

（データベース課）

目次へ戻る　　次へ

接続ニュース

前号以降，新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は，以下のとおりです。

（平成10年９月30日現在）

No.	機　　関　　名	接続日	No.	機　　関　　名	接続日
613	大阪学院大学	10. 7.22	623	恵泉女学園大学	10. 9. 4
614	広島国際大学	10. 7.22	624	広島商船高等専門学校	10. 9. 9
615	東京家政大学	10. 9. 1	625	岐阜女子大学	10. 9.17
616	芝浦工業大学	10. 9. 1	626	愛知芸術文化センター	10. 9.18
617	島根県立国際短期大学	10. 9. 2	627	高野山大学	10. 9.30
618	神戸親和女子大学	10. 9. 3	628	都城工業高等専門学校	10. 9.30
619	山陽学園大学	10. 9. 3	629	愛知産業大学	10. 9.30
620	津山工業高等専門学校	10. 9. 3	630	旭川工業高等専門学校	10. 9.30
621	愛知女子短期大学	10. 9. 3	631	大分工業高等専門学校	10. 9.30
622	仙台電波工業高等専門学校	10. 9. 4			

この結果，参加機関数は，国立大学98，公立大学45，私立大学297，共同利用機関12，短期大学62，高等専門学校37，その他80，合計631機関となりました。

（共同利用第一係）

目次へ戻る　　次へ

SCI，SSCI，AHCIおよびISTP&Bのサービス変更

米国Institute for Scientific Information（以下「ISI」という。）社製のScienceCitation Index Expanded（以下「SCI」という。），Social Sciences CitationIndex（以下「SSCI」という。），Arts and Humanities Citation Index（以下「AHCI」という。）およびISTP&Bは，ISI社がデータベース提供方式およびISTP&Bの収録内容を変更するため，平成11（1999）年１月からのサービスを次のように変更します。

１．SCI，SSCI，AHCI

（１）データベースへの新規データの追加は1998年12月分までとし，以後1983年から1998年12月までのデータを，現行のNACSIS-IRで提供します。

（２）1999年１月以降のデータについては，本センターの対応が完了次第，新IR試験公開として提供を開始します。

２．ISTP&B

（１）ISTP&Bへの新規データの追加は1998年12月分までとし，1982年から1998年12月までの分を，現行のNACSIS-IRで提供します。

（２）1999年１月以降の新規データは，現行の図書に収録された科学・技術論文に関する“ Indexto Scientific Book Contents ”（“ B ”相当）を含まなくなりますので，ISTP&Bとは別の新しいISTPデータベースに収録することになります。

（３）1999年１月以降のISTPのデータについては，本センターの対応が完了次第，新IR試験公開として提供を開始します。

３．今後のサービスついて

平成12年１月以降は，新情報検索システム（新IRシステム）により，SCI，SSCI，AHCI（各1983年～），ISTP&B（1982年～1998年）およびISTP（1999年～）のデータベースすべてを提供する予定です。

1999年のデータについては，利用者の方々にはご不便をおかけしますが，出来るだけ早く新IR試験公開として，利用者の方々へ提供したいと考えております。

新IR試験公開の利用方法については，本センターニュース45号および新IR試験公開wwwページ（http://testir.nacsis.ac.jp）をご覧ください。ご理解とご協力をお願いします。

（データベース課）

目次へ戻る　　次へ

学術情報センターシステム利用の継続手続き

学術情報センターシステム（情報検索サービス，電子メールサービスおよび国際電子メールサービス）を平成11年度も引き続き利用する方は，平成11年２月１日から３月23日の期間に１または２の方法で継続手続きを行ってください。

なお，（1）支払科目を変更する場合，（2）文部省科学研究費補助金を支払科目とする場合，（3）利用期限が３月末日でない場合は，継続申請を行うことはできません。

１．学術情報センターへ直接申請した利用者

支払責任者および経理責任者と相談の上，今年度と同じ内容（登録内容に変更がない）で次年度も利用を継続する場合は，「APPLY」コマンドにより継続の申請を行ってください。

なお，次年度から登録内容を変更する場合は，「学術情報センターシステム利用申請書」により「変更」の申請を行い，備考欄に必ず「継続後の変更」と明記してください（「継続後の変更」と明記がない場合はその年度の内容が変更されることとなり，継続の申請としては取り扱いませんのでご注意ください）。

また，継続受付期間内に継続の手続きを行わなかった場合は，平成11年４月以降の利用はできなくなりますが，６月末迄の期間は，失効した利用者番号で学術情報センターに接続すると「継続の有無」が表示されますので，継続すると答えることにより継続の申請を受け付けます（ただし，継続の手続きが終了するまで約１～２週間利用できなくなります。）。

２．大型計算機センター経由により申請した利用者

利用者が所属する大型計算機センター（所属センター）へ継続申請を行った後，継続受付期間内に，所属センターから学術情報センターの継続申請を，第二センター申請コマンドにより行ってください。

なお，第二センター申請コマンドの詳細は所属する大型計算機センターへ問い合わせてください。

〔各申請の受付期間〕

申　請　の　種　類	受　付　期　間
平成10年度　新規・追加の受付	平成11年２月26日（金）まで
平成10年度　変更・取消の受付	平成11年３月26日（金）まで
平成11年度への継続の受付	平成11年２月１日（月）から３月23日（火）
平成11年度　新規の受付	平成11年４月１日（水）から

※　ただし，平成11年度の学術情報センターへの新規申請は平成11年３月23日（火）から受け付けます。

〔継続申請の方法〕

	利用者種別	継続条件	継　続　手　続　き
継続処理	学術情報センターへの直接申請による利用者	登録内容に変更なし	「APPLY」コマンドにより継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	利用申請書に必要事項を記入・押印のうえ，備考欄に「継続後の変更」と明記し申請する。
	大型計算機センター経由による利用者	登録内容に変更なし	利用者が所属する大型計算機センターへ継続の申請を行った後，第二センターとして学術情報センターへの申請を第二センター申請コマンドで継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	
継続を失念した場合	学術情報センターへの直接申請による利用者	登録内容に変更なし	失効した利用者番号で学術情報センターに接続し，「継続の有無」の問い合わせで継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	失効した利用者番号で学術情報センターに接続し，「継続の有無」の問い合わせで継続の申請を行った後，利用申請書で変更の申請を行う。
	大型計算機センター経由による利用者	登録内容に変更なし	利用者が所属する大型計算機センターへ申請（継続・新規とも）した後，第二センターとして学術情報センターへの申請を第二センター申請コマンドで新規に申請する。
		登録内容に変更あり	

〔申請書の登録内容〕

事　　項	コ　　マ　　ン　　ド
登録内容の確認	継続受付期間内は「APPLY」コマンドで確認できます。 ４月以降は「CHKAPPLY」コマンドで確認できます。

（共同利用第一係）

目次へ戻る　　次へ

文部省科学研究費補助金による利用期限（2月13日）

学術情報センターシステム（情報検索サービス，電子メールサービスおよび国際電子メールサービス）の利用料金の支払いのうち，文部省科学研究費補助金によるものの利用期限は，平成11年２月13日（土）までになります。利用料金の請求（納入告知書）は，平成11年２月22日頃に送付する予定です。

なお，CHARGEコマンドによる利用料金参照機能も，２月14日（日）からは利用できませんので，２月の利用料金についてはデータベース検索終了時に表示される利用料金の内訳をご覧ください。

（共同利用第一係）

目次へ戻る　　次へ

「学術雑誌目次速報データベース」の進捗状況

前々号以降，「学術雑誌目次速報データベース」に対するデータ提供の申込みが15機関からあり，平成10年10月21日現在データ提供機関の参加状況は以下のとおりです。

	機関数	組織数	雑誌数
国立大学	82	192	1,108
公立大学	14	17	70
私立大学	129	136	782
短期大学	36	36	79
高等専門学校	23	23	27
その他	18	18	312
合　　計	302	422	2,378

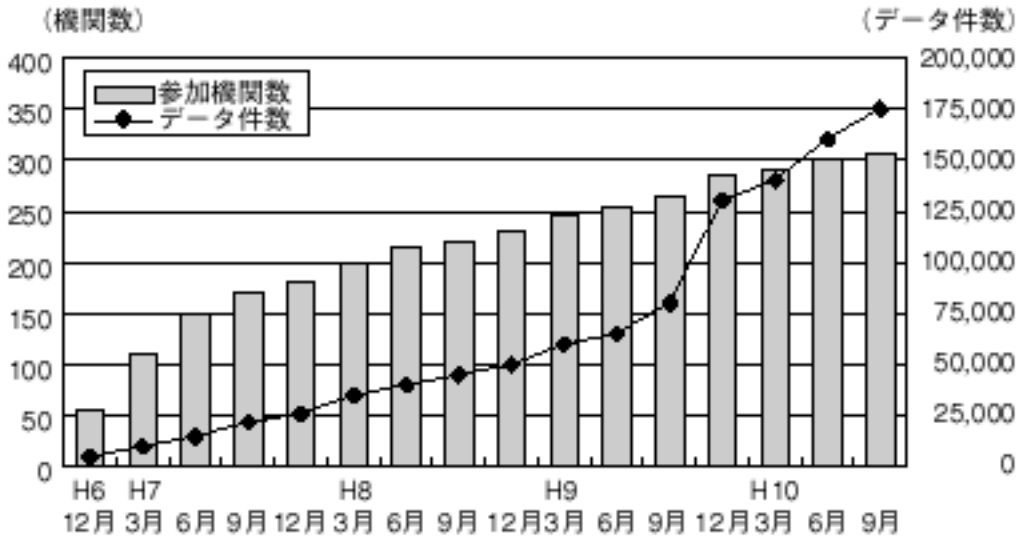
最新の参加機関，収録対象雑誌の一覧はGopher，WWWでも見ることができます。

URLは以下のとおりです。

Gopher gopher://gopher.nacsis.ac.jp/11/ir/sokuho

WWW http://www.nacsis.ac.jp/sokuho/

データベースの収録件数は174,000件になりました。サービス開始当初からのデータ件数と参加機関の推移は以下のとおりです。



なお，このデータベースに関するお問い合わせは，データベース課文献データベース係（TEL.03-3942-6975～6，FAX.03-3942-9398）までお願いします。

（データベース課）

目次へ戻る　　次へ

Webcat利用状況（平成10年度前期）

学術情報センター事業活動の広報の一環として開始したWebcat（総合目録データベースWWW検索サービス）は，平成10年４月の本運用開始から半年がたちました。

１．利用統計表（平成10年４月～９月）

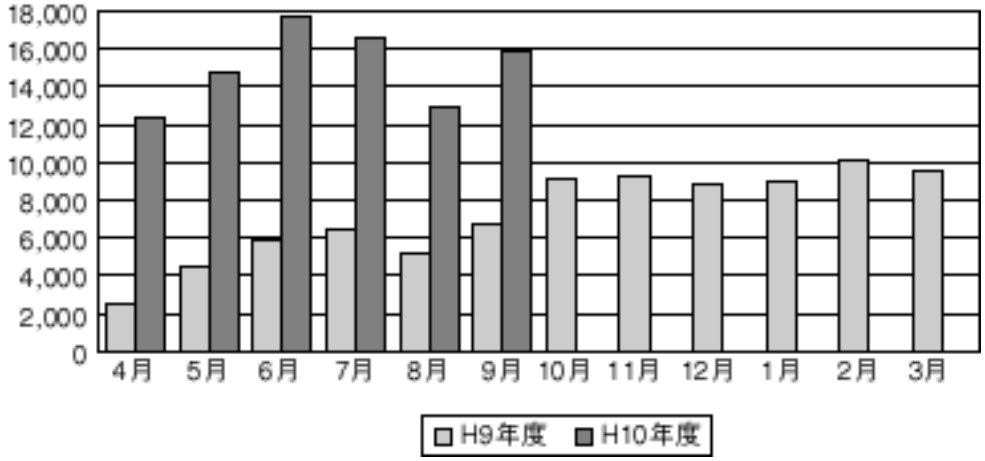
平成10年度前半期分の利用統計を，次に示します。

		４月	５月	６月	７月	８月	９月
ページ転送回数	合　計	843,697	1,001,684	1,186,422	1,158,784	881,402	1,094,404
	日平均	28,123	32,312	39,547	37,380	29,380	36,480
検索回数	合　計	370,194	459,287	532,839	512,896	386,256	478,212
	日平均	12,340	14,816	17,761	16,545	12,875	15,940
表示回数	合　計	306,136	337,913	404,643	409,707	319,710	396,681
	日平均	10,205	10,900	13,488	13,216	10,657	13,223
利用者数*	合　計	26,544	33,429	26,807	21,515	32,808	40,096
	新　規利用者	26,544	23,124	15,380	10,719	17,819	21,063
	累　積	26,544	49,668	65,048	75,767	93,586	114,649
稼働日数		30	31	30	31	30	30

注*）利用者数は，アクセスしたコンピュータ数（IPアドレス数）を月毎に集計した数。

２．平均検索回数の推移（平成９年４月～平成10年９月）

１日当たりの平均検索回数の推移を，試行サービス期間中の平成９年度のものと比較して示します。



（目録情報課）

目次へ戻る　　次へ

NACSIS-ILL利用状況（平成10年度前期）

平成10年９月30日現在

１．利用機関

区　　分	国立大学	公立大学	私立大学	その他	計
機　関　数	98	35	186	113	432
参加組織数	248	45	230	118	641

２．月別レコード件数

年　　月	複　　写	貸　　借	計
1998年４月	61,334	3,197	64,531
５月	72,157	4,274	76,431
６月	84,196	5,497	89,693
７月	77,512	5,870	83,382
８月	63,164	4,184	67,348
９月	72,599	4,233	76,832
合　　計	430,962	27,255	458,217

３．図書館種別の流動

上段：複写件数，中段：貸借件数，下段：合計

受付 依頼	国立大学	公立大学	私立大学	その他	合　計
国立大学	287,580 14,031 301,611	1,223 551 1,774	9,015 2,274 11,289	11,061 895 11,956	308,879 17,751 326,630
公立大学	17,666 587 18,253	1,792 148 1,940	7,188 620 7,808	1,454 80 1,534	28,100 1,435 29,535
私立大学	20,491 1,861 22,352	2,812 389 3,201	41,053 3,486 44,539	3,476 506 3,982	67,832 6,242 74,074
その他	16,165 1,028 17,193	1,444 64 1,508	7,229 533 7,762	1,313 202 1,515	26,151 1,827 27,978

合　計	341,902 17,507 359,409	7,271 1,152 8,423	64,485 6,913 71,398	17,304 1,683 18,987	430,962 27,255 458,217

（目録情報課）

目次へ戻る　　次へ

NACSIS-IRデータベース増加状況

平成10年11月６日現在

No.	データベース名称	収納件数	前回収納件数	備考
1	学会発表データベース（全分野）	359,391	356,607	9/28追加更新
2	学術論文データベース第二系（化学関連）	23,558	23,404	9/24追加更新
3	学会予稿集電子ファイル	229,837	218,980	10/26追加更新
4	学術雑誌目次速報データベース	178,225	169,380	毎日更新 11/6追加更新
5	科学研究費補助金採択課題データベース	103,362	103,156	9/3追加更新
6	雑誌記事索引データベース	1,918,291	1,861,433	隔週更新 最終更新日11/4
7	現行法令データベース	3,940	3,916	8/25全件更新
8	データベース・ディレクトリ	2,428	2,403	10/16全件更新 平成9年度調査データ
9	社会学文献情報データベース	12,129	—	10/1サービス開始
10	地理学文献データベース	13,897	—	10/1サービス開始
11	Life Sciences Collection PULS Marine Biology and Bio Engineering	1,980,368	1,954,104	月次更新 最終更新日10/15
12	MathSci	1,921,954	1,914,161	月次更新 最終更新日9/9
13	COMPENDEX PLUS	3,839,124	3,772,185	月次更新 最終更新日10/27
14	Harvard Business Review	3,000	2,978	隔月更新 9/24追加更新
15	ISTP & B	3,377,732	3,309,110	月次更新 最終更新日10/23

16	EMBASE	4,766,856	4,692,357	週次更新 最終更新日10/14
17	Science Citation Index Expanded	12,094,991	11,921,745	週次更新 最終更新日11/9
18	Social Science Citation Index	2,061,509	2,036,687	週次更新 最終更新日10/15
19	Acts and Humanities Citation Index	1,829,762	1,810,052	週次更新 最終更新日10/15
20	目録所在情報データベース（図書）：書誌 ：所蔵	3,888,756 34,565,400	3,776,486 33,043,548	週次更新 最終更新日11/9
21	科学技術関係欧文会議録データベース	54,490	53,905	11/5追加更新
22	JPMARC	2,000,931	1,977,293	月次更新 最終更新日11/2
23	LCMARC（Serials）	800,433	790,757	月次更新 最終更新日11/2
24	国会図書館洋図書目録データベース	179,801	176,543	11/2追加更新
25	学協会集会スケジュール（日本工学会編）	10,171	9,947	9/16追加更新

＊10/1から，社会学文献情報データベース及び地理学文献データベースのサービスを開始いたしました。

＊現在サービス中のデータベースは全部で59種類あります。データベースの一覧は，URL（http://www.nacsis.ac.jp/ir/dblist-j.html）でご覧いただけます。

（システム管理課）

目次へ戻る　　次へ

NACSIS-CATデータベース構築状況

平成10年11月６日現在

データベース名称			収納件数	備　　考（収録期間等）
総合目録データベース	図　　書	書　　誌	3,900,291	
		書誌（遡及）	712,432	
		所　　蔵	35,658,532	
	雑　　誌	書　　誌	220,443	
		所　　蔵	3,259,869	
	著者名典拠		1,032,226	
	統一書名典拠		15,752	
	和雑誌変遷マップ		7,841	
	洋雑誌変遷マップ		16,461	
参照ファイル	ＬＣ／ＭＡＲＣ	洋図書書誌	5,629,490	1968年１月～1998年７月
		洋雑誌書誌	800,433	1973年１月～1998年９月
		非文字書誌	268,147	1973年１月～1993年12月
		洋書著者名典拠	3,261,794	1977年１月～1998年10月
		洋書統一書名典拠	257,450	1977年１月～1998年10月
	ＪＰ／ＭＡＲＣ	和図書書誌	2,037,658	1868年１月～1998年10月
		和雑誌書誌	100,582	1968年８月～1996年１月
		和書著者名典拠	325,315	
	ＵＫ／ＭＡＲＣ	洋図書書誌	1,756,589	1950年１月～1998年10月
	ＴＲＣ／ＭＡＲＣ	和図書書誌	696,594	1985年４月～1998年10月
	ＧＰＯ／ＭＡＲＣ	洋図書書誌	437,401	1976年１月～1998年９月

（システム管理課）

目次へ戻る　　次へ

平成10年度利用説明会開催予定

本センターの各サービスを利用していない機関または研究者などを対象として，下記の日程で利用説明会を開催いたします。この利用説明会では，各サービスの紹介，概要説明，申請方法の説明などを行っています。これらの説明会はシステムの操作方法などの講習会ではありませんのでご注意ください。なお，今年度の情報検索サービス利用説明会は終了しました。

１．目録所在情報サービス利用説明会

１．１　主な内容

（１）学術情報センターの概要

（２）目録所在情報サービスの概要

（３）学術情報センターとの接続方法

（４）利用申請方法

（５）研修の申込み方法

（６）質疑応答・個別相談

１．２　開催日時および申込締切

開　催　日　時		募　集　開　始	募集締切り
第4回	平成11年１月29日(金) 13:30～16:30	平成10年12月１日（火)	平成11年1月22日（金）

１．３　対象機関

目録所在情報サービスに未接続の下記の図書館職員，電子計算機担当者，ネットワーク担当者など　(1) 国公私立大学，(2) 短期大学，(3) 高等専門学校，(4) 文部省および文化庁の施設・機関など，(5) 国公立試験研究機関，(6) 学術研究法人および学会，(7) 都道府県・政令指定都市立図書館など

１．４　申込み方法

先着17機関とさせていただきますので，希望日を共同利用第一係まで電話（03-3942-6933）で予約（確認）のうえ，(1) 参加希望の説明会名（目録所在情報サービス利用説明会），(2) 参加日（第○回○月○日），(3) 機関名，(4) 機関の所在地，(5) 参加者の職名および氏名（２名以内），(6) 連絡先の電話番号を記入して共同利用第一係までFAX（03-3942-6797）でお申し込みください。FAXの書式例は教育研修事業要綱に，「利用説明会申込み用FAX送信票」が添付されていますのでご利用ください。

申込み・問い合わせ先：学術情報センター管理部共同利用課共同利用第一係

電　話　０３－３９４２－６９３３　　ＦＡＸ　０３－３９４２－６７９７

（共同利用第一係）

目次へ戻る　　次へ

平成10年度総合目録データベース実務研修－終了報告－

平成10年度総合目録データベース実務研修を，第１回は平成10年９月21日～10月９日，第２回は10月19日～11月６日の各３週間の日程で実施し，計24名（各回12名）の研修員の方が全課程を無事修了されました。これにより，同研修の修了者数は351名になりました。

この研修の目的は，目録所在情報サービスの参加機関において指導的，中核的な役割を担う人材を養成することにあります。

研修は，目録所在情報サービスに係る内容を中心とした講義・ディスカッション，国立国会図書館および図書館流通センターの見学に加え，自由テーマでの個別研修を実施し，レポートを作成・提出していただきました。研修の内容および提出されたレポートはWWW（URL: http://www.nacsis.ac.jp/hrd/welcome.html）で公開しています。

なお，研修を修了された方々は以下のとおりです。

平成10年度総合目録データベース実務研修修了者名簿

第１回		第２回	
氏　　名	所属機関	氏　　名	所属機関
田　畑　由美子	岩手大学	首　藤　佳　子	北海道大学
徳　永　智　子	筑波大学	金　子　　敏	旭川医科大学
藤　本　帝　子	東京大学	近　藤　　務	筑波大学
高　井　　力	東京学芸大学	柳　原　恵　子	東京大学
宗　近　美佐子	金沢大学	棚　橋　是　之	名古屋大学
赤　井　規　晃	京都大学	伊　原　尚　子	名古屋工業大学
家　住　久　子	兵庫教育大学	鈴　木　雅　子	大阪大学
森　谷　めぐみ	岡山大学	多　田　剛　志	大阪外国語大学
岡　田　英　治	広島大学	田　中　孝　次	鳴門教育大学
中　村　千都世	高知大学	岩　澤　尚　子	香川大学
江　藤　弘　史	九州大学	行　武　良　子	九州芸術工科大学
赤　嶺　久　夫	琉球大学	後　藤　　幸	神戸女子大学

第１回研修員

第２回研修員

（研修課）

目次へ戻る　　次へ

学術情報の国際的流通共有システムに関する実証研究

－タイ王国からの研究者招聘－

平成９年度より３年計画で実施している文部省科学研究費国際共同研究「学術情報の国際的流通共有システムに関する実証研究」（研究代表者 小野 欽司研究開発部長）では，平成10年８月２日から９日にかけて，タイ王国からAsian Institute of Technology（AIT，アジア工科大学）のProf. Vilas Wuwongse（ヴィラ助教授），Kasetsart University（カセサート大学）のProf. Asanee Kawtrakul（アサニ助教授），Asian Center for Research on Remote Sensing（ACRoRS，リモートセンシング研究アジアセンター）のDr. Surat Lertlum（スラ博士），National Electronics and Computer Technology Center（NECTEC，国立電子通信技術研究センター）のMr. Paisal Kiattananan（パイサル氏）の４名を招聘した。

今回の招聘では，日本およびタイ王国における学術情報の国際情報流通の現状について情報を交換し，両国間での情報流通の促進に関する諸問題を検討するとともに，衛星画像情報，ハイパーメディアデータベース，遠隔講義やネットワーク会議など，現在活動を行っている共同プロジェクトに関する議論や中間的な評価を行った。これらはいずれも，日本とタイ王国を結ぶ国際通信回線を介して両国の研究者が緊密に連携しながら進めているもので，アジアにおける今後の学術研究情報システムおよびネットワークのあり方を探るテストケースとなることが期待される。なお，これらの共同研究については，12月に開催予定の共同ワークショップにて活動成果を報告する予定である。

打合せの様子

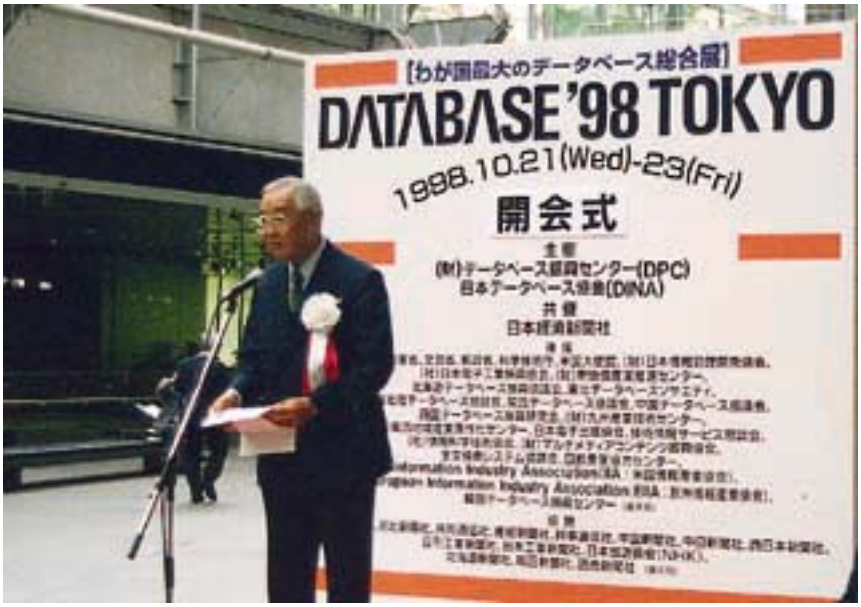
Prof. Vilas Wuwongse

目次へ戻る　　次へ

DATABASE '98 TOKYOの出展報告

平成10年10月21日（水）から23日（金）の３日間，東京国際フォーラム展示ホールにおいて，財団法人データベース振興センターおよび日本データベース協会の主催により，内外のデータベースや電子情報サービスについての最新システムを一堂に集めた「DATA BASE '98 TOKYO」が開催された。同展示会は今年で10回目を迎え，ひとつの区切りとして主催者も従来に比べて力がはいっていた。今年の入場者は，約36,000名であった。

学術情報センターからも事業の紹介と学術情報の流通の促進を図るため出展し，インターネットを介して，電子図書館サービス（NACSIS-ELS），情報検索サービス（NACSIS-IR），総合目録データベースWWW検索サービス（Webcat），および学術雑誌総合目録CD-ROMの実演などを行った。



開会式での猪瀬データベース振興センター理事長のあいさつ

開会式でのテープカット

学術情報センターブースでの風景

（共同利用第一係）

目次へ戻る　　次へ

人事異動

発令年月日	氏　名	新　官　職　名　など	旧　官　職　名
(採　　用)			
10．8．1	上野　晴樹	研究開発部学術情報研究系記号科学研究部門教授	
10．10．1	矢野　正晴	研究開発部研究動向調査研究系理工系研究部門助教授	
	孟　　洋	研究開発部システム研究系ソフトウェア工学研究部門助手	
(転　　入)			
10．9．16	山田　浩典	管理部総務課庶務係長	東京医科歯科大学経理部経理課出納掛出納主任
(所内異動)			
10．8．1	柿沼　澄男	研究開発部学術情報研究系データベース研究部門助教授	研究開発部研究動向調査研究系理工系研究部門助教授
(客員部門)			
10．8．1	五神　　真	研究開発部開発研究系フルテキストコンテンツ開発研究部門助教授	（本務先：東京大学大学院工学系研究科助教授）
10．9．1	魚瀬　尚郎	研究開発部開発研究系高品質ネットワーキング開発研究部門教授	研究開発部システム研究系超高速通信方式研究部門助教授
	漆谷　重雄	研究開発部システム研究系超高速通信方式研究部門助教授	（本務先：日本電信電話（株）ネットワークサービスシステム研究所）
	土井　晃一	研究開発部開発研究系高品質ネットワーキング開発研究部門助教授	（本務先：（株）富士通研究所情報社会科学研究所）
(辞　　職)			
10．9．30	川原井　淳		事業部ネットワーク課ネットワーク管理係
(転　　出)			
10．9．16	星野　佳也	東京大学農学部附属演習林用度掛長	管理部総務課庶務係長

（人事係）

目次へ戻る